

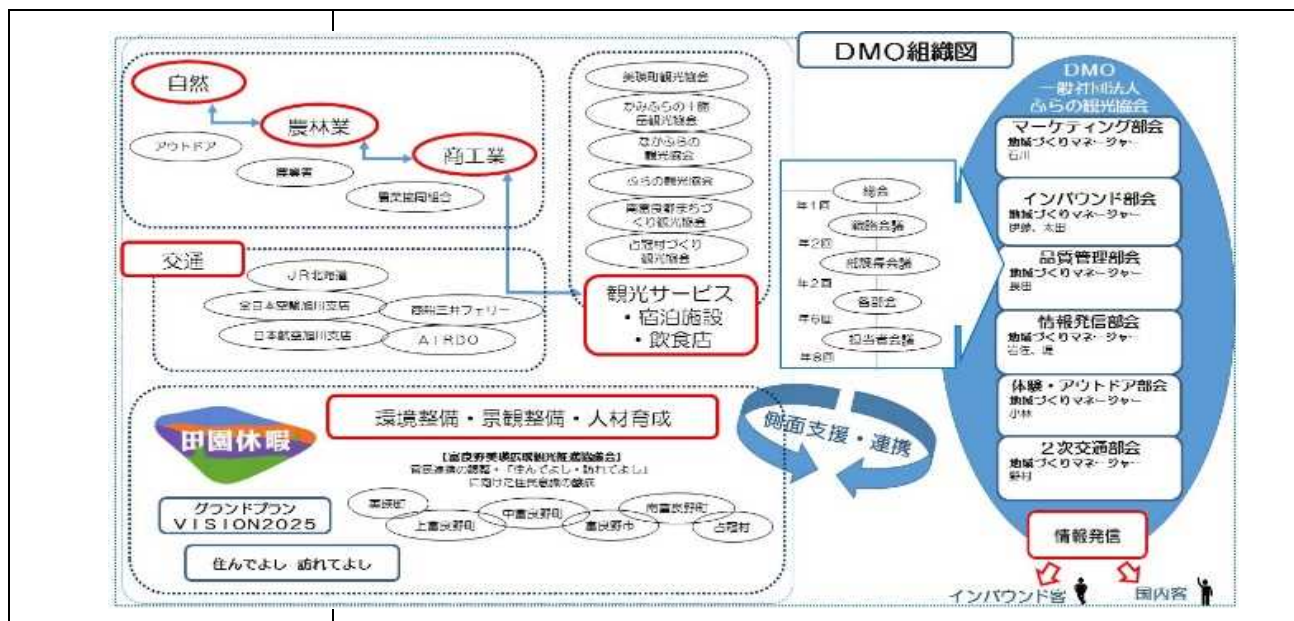
日本版DMO形成・確立計画

1. 日本版DMOの組織

申請区分	地域連携DMO	
日本版DMO候補法人の名称	一般社団法人ふらの観光協会	
マーケティング・マネジメント対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 北海道 美瑛町、上富良野町、中富良野町、富良野市、南富良野町、占冠村	
所在地	北海道富良野市日の出町1番30号	
設立時期	平成10年4月6日	
職員数	6人	
代表者（トップ人材：法人の取組について対外的に最終的に責任を負う者） ※必ず記入すること	（氏名） 鈴木 敏文 （出身組織名） （一社）ふらの観光協会 会長	（一社）ふらの観光協会にて会長、地域の旅館組合での前会長をつとめ、地域の観光を中心としたまちづくりのパイプ役となっている。
各種データの分析・収集等（マーケティング）の責任者（専門人材） ※必ず記入すること	（氏名） 石川 芳「専従」 （出身組織名） （一社）ふらの観光協会	（一社）ふらの観光協会にて15年となり、事務局長として富良野美瑛観光協会連絡会の事務局も務め、地域の様々な団体とのパイプ役となっており、在任期間中にも様々な取組で成果をあげている。
サービス品質、安全制の確保の責任者（専門人材）	（氏名） 長田 公一 （出身組織名） （一社）かみふらの十勝岳観光協会	旅館での接客業従事に20年という経歴を活かし、地域内のサービス品質を管理している。
インバウンド向け滞在プログラム造成の責任者（専門人材）	（氏名） 伊藤 洋平 （出身組織名） （一社）ふらの観光協会	旅行会社でインバウンド事業に8年間勤務。自身も留学経験があり語学にも精通。インバウンド向け滞在プログラム造成やプロモーションを中心に行なう。
アウトドア滞在プログラム造成の責任者（専門人材）	（氏名） 小林 茂雄 （出身組織名） NPO法人南富良野まちづくり観光協会	アウトドア・カヌーガイドを30年続け、地域内のアクティブ関連業者を束ね、地域内の滞在プログラムの造成を行なっている。
旅行商品の造成・発信の責任者（専門人材）	（氏名） 岩佐 高子 （出身組織名） （一社）美瑛町観光協会	地域住民との調整、旅行商品の造成、情報発信ツール整備などの中心的な役割を担っている。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	富良野市商工観光課（全体のサポート及びマーケティング部会、富良野観光協会のバックアップ） 美瑛町経済文化振興課（全体のサポート及び商品造成、インバウンド部会、美瑛町観光協会のバックアップ）	

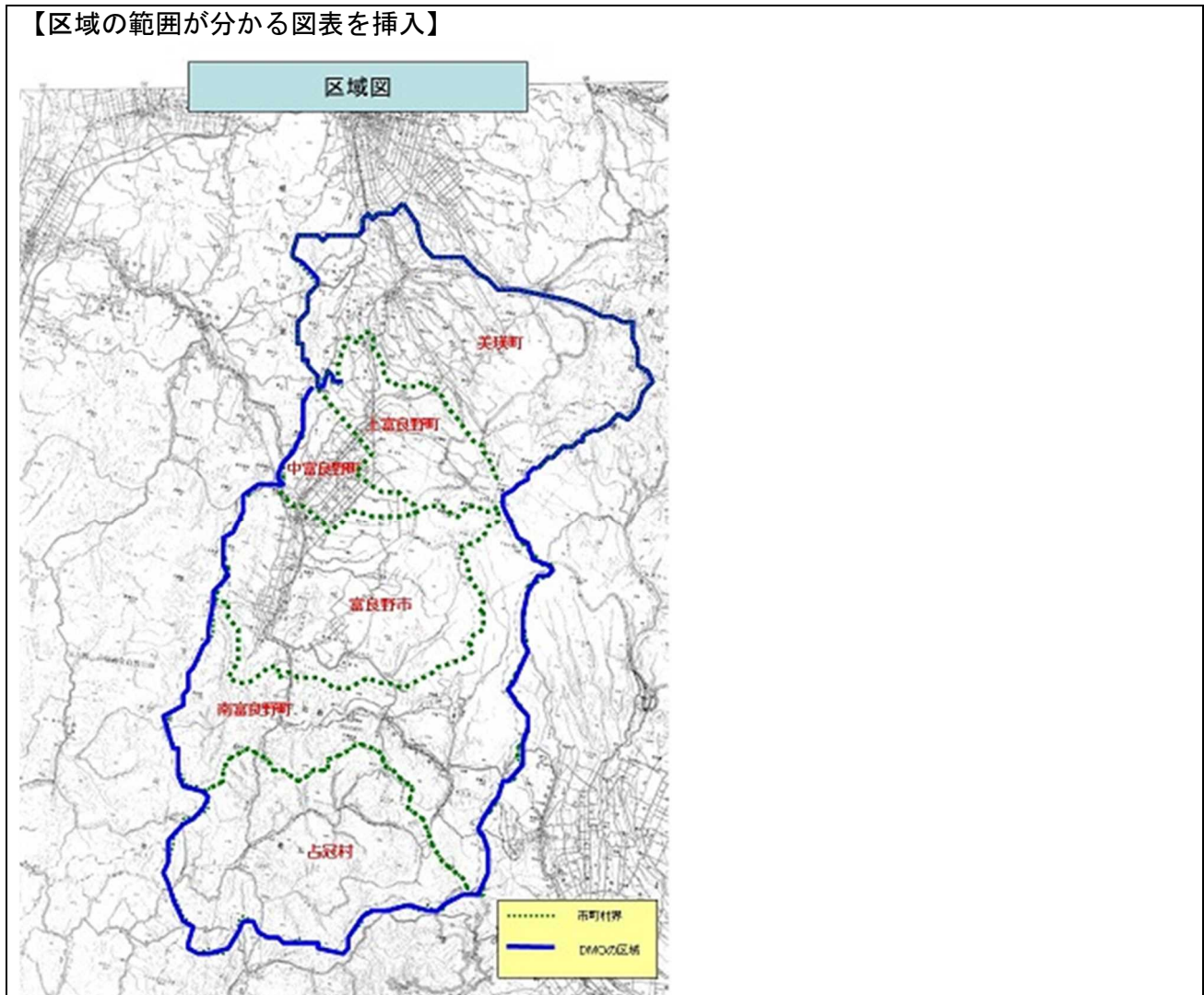
(別添) 様式 1

	<p>上富良野町産業振興課（全体のサポート及び品質管理部会、かみふらの十勝岳観光協会のバックアップ） 中富良野町産業建設課（全体のサポート及び情報発信部会、インバウンド部会、なかふらの観光協会のバックアップ） 南富良野町企画課（全体のサポート及び体験・アウトドア部会、南富良野まちづくり観光協会のバックアップ） 占冠村企画商工課（全体のサポート及び情報発信部会、占冠村づくり観光協会のバックアップ）</p>
連携する事業者名及び役割	<p>J R北海道（二次交通） 日本航空旭川支店（アクセス改善） 全日本空輸旭川支店（アクセス改善） (株)A I R D O（アクセス改善） 商船三井フェリー(株)（アクセス改善） ふらの農業協同組合（ふるさと名物の開発、農業者連携） 美瑛町農業協同組合（ふるさと名物の開発、農業者連携） N P O法人グリーンステージ（着地型旅行商品）</p>
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	<p>（該当する要件）④ （概要） 日常的な調整は各部会を中心に行なうほか、合意形成の場を戦略会議と称し各部会の長及び行政、観光協会を中心としたメンバーにて行なう。また、実務者レベルで行なう担当者会議を月1回程度開催するほか、全関係者を招集した会議を年2回行い合意形成を図る。</p>
地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	<p>富良野美瑛の「田園」「花」は自然景観ではなく、人が作り上げてきた文化的遺産であり、異業種（特に農業・森・山岳）を知り、今後の情報発信のあり方などを学ぶ農業環境研修を継続して実施。観光アカデミーと称した人材育成研修を地域住民参加可能とし、実施。また、地元ボランティアで構成されるスキーホストは外国人対応のガイドとして活躍している。</p>
法人のこれまでの活動実績	<p>（活動の概要） 本エリアの観光の推進を図るために観光受け地としての体制確立に向けて、各地域の行政、観光協会、民間業者が一体となり観光振興を通じたまちづくりを推進する組織として事業を行なう。 （定量的な評価） 平成28年度の広域としての観光入込は、約705万人で100.9%（前年度より約6万人増）。台風被害等もあり上半期（4月～9月）は96.1%の約504万人（前年度より約20万人減）で、下半期（10月～3月）は115%の約201万人（前年度より26万人増）。また、宿泊延べ数は、95.6%の約158万泊（前年度より約7万泊減）となった。</p>
実施体制	<p>（実施体制の概要） （一社）ふらの観光協会が母体となり、メンバーには、行政、宿泊業者、飲食業者のみならず、交通業者、農業者など多数な関係者が参画するなど官民が密接に連携した運営を実施。行政については各部会において連携を図るほか、戦略会議や富良野美瑛広域観光推進協議会の担当者会議の場などにおいて共有をおこなっている。 （実施体制図）</p>



2. 日本版DMO候補法人がマーケティング・マネジメントする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】



(別添) 様式 1

【区域設定の考え方】

H6年から、「富良野美瑛広域観光推進協議会」を6市町村で設置し、お客様の立場に立って市町村境界を越えた連携を21年間継続。今後も「富良野・美瑛」ブランド構築のためにも現6市町村が一体となった区域設定が適切。

【観光客の実態等】

行政区、自治体は実はそれぞれ違う町だが、お客様にとっては「富良野・美瑛」は一体の地域と考えられている。

【観光資源：観光施設、商業施設、自然、文化、スポーツ、イベント等】

- ・自然と共生した人々の素朴さ・おおらかさ
- ・ドラマの生まれれる街～北の国から他
- ・豊かな食文化（野菜・牛乳・スイーツ）
- ・環境に配慮した暮らし＝16 分別のゴミだし
- ・「もったいない」を基本にした暮らし
- ・犬ぞり・カーリングなどの冬遊び
- ・雄大な景色の中でのアクティビティ（登山・ラン・自転車・スキーなど）

【宿泊施設：域内分布、施設数、収容力、施設規模等】

富良野地区：宿泊施設数 65

美瑛地区：宿泊施設数 61

上富良野地区：宿泊施設数 6

中富良野地区：宿泊施設数 20

南富良野地区：5

占冠地区：11

【利便性：区域までの交通、域内交通】

・旭川空港から区域の北側の美瑛町までは30分、新千歳空港から区域の南側までは1時間と道外からのアクセスもよく、また道内のアクセスについては北海道の中央ということで利便性が高い。また、域内交通については夏場に田園くるる号は、富良野駅を基点とし中富良野のファーム富田など主要な観光スポットをめぐる周遊バスとなっている。また、冬場はスキーエリアの宿泊地区（北の峰）からまちなかへ回遊させるイブニングシャトルバスを運行している。

【外国人観光客への対応】

・各地域にて情報発信ツールの多言語化が進んでおり、英語を中心に、繁体字・簡体字・ハンガルの4ヶ国語対応で進めている

・ふらの観光協会にて、H25のワンストップ窓口システム導入時に「外国人受入環境整備基準」に基づき現状の整備について整理を行っている。インバウンド誘客強化に向けて外国人受入研修会を定期的に行っている。

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。国別などデータを収集。	グーグルアクセス解析を活用して実施。
旅行者満足度	観光振興に対する現状の分析や次の展開に活かすため。	アンケート調査を全国観光圏推進協議会と連携して実施。

(別添) 様式 1

旅行消費額	現状の把握をすることで、それぞれが抱える課題を抽出し、今後の取り組みの方向性について検討をおこなう基礎資料とするため。	観光客を対象とした観光消費実態調査及び事業者を対象とした観光経済事業所調査を実施。
観光客入込	調査データをもとに観光客の利用状況を把握し、これからの観光施策に活用するため。	宿泊施設、観光施設に対する観光入込客数調査を実施。

4. 戦略

(1) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	<p>強み (Strengths)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパを思わせる自然景観・丘の風景 ・大雪山系十勝岳連峰＋日高山系などの雄大な山岳地帯と東大演習林を含くと森林地帯 ・北海道のほぼ中央に位置し、札幌圏・旭川圏へのアクセスも良い。 ・白銀世界・良質な雪と国際的なスキー場 ・晴天率が高く、街に歩いていけるスキー場 ・ラベンダーをはじめとする花々 ・日本一早い紅葉の十勝岳を中心とする温泉(白金・十勝岳) ・空が広く、空気がきれいなイメージ ・感動とクリーンなイメージを発信した先駆者(前田真三・倉本聰・ファーム富田) ・空知川＋かなやま湖を中心とする川・湖でのアクティビティ体験 ・北の国からの町地＋富良野塾の演劇リフト ・獲れない物はない野菜王国 ・上富良野の豚・富良野牛・カレーの取組 ・占冠の山菜や通年型の大型リゾート施設 ・よそ者を受け入れる風土と移住者 	<p>弱み (Weaknesses)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客の夏期集中による渋滞 ・公共交通アクセスの不便 ・外国人対応など観光案内機能の不足 ・夜の観光の魅力不足 ・観光関係機関のネットワーク不足 ・観光バリエーション不足 ・雪による冬季生活が不便 ・自然環境の破壊 ・本州と比べて歴史が薄い ・特徴ある料理がない ・名物となるお土産が少ない ・歩いて回れる観光施設が少ない ・宿泊施設料金に多様性がない ・長期滞在用の宿泊施設が少ない ・イメージ先行 ・自然環境は昼間しか見れない ・冬道のドライブ観光の不安 ・農家・ペンションの後継者不足
外部環境	<p>機会 (Opportunity)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコツーリズム・スポーツツーリズムなどの追い風 ・団塊世代の退職に伴う市場拡大 ・国のVJによる外国人観光客(アジア)の増加 ・中国・オーストラリアをはじめとするアジア太平洋経済の発展にともなう観光マーケットの拡大 ・旭川空港の国際化・韓国直行便就航 ・北の国からの台湾・韓国放送 ・高規格道路の開通による旭川圏のアクセス拡大 	<p>脅威 (Threat)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペンション・ホテル・飲食店の担い手不足 ・交通渋滞などによる住民の歓迎意識の低下 ・他の観光地との競争激化 ・十勝岳噴火などの自然災害・風評被害 ・原油高による航空賃の高騰 ・スキー人口の減少 ・観光インフラの整備 ・人口減少による旅行者減

(別添) 様式 1

<ul style="list-style-type: none"> ・ スカイマーケット参入による低価格化 ・ 高速道路開通による札幌圏・十勝圏のアクセス拡大 ・ LCC による低価格化 ・ FIT 化する旅行者 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者の旅行離れ ・ 高速道路開通による空洞化 ・ 乱開発による自然環境の破壊 ・ 農業の担い手不足による農地の荒廃 ・ 航空会社 (LCC) の競争激化による減便
---	---

(2) ターゲット

<p>○ターゲット層① 北海道内 (札幌、旭川から) の家族層、ドライブ旅行の女性同士、カップル</p>
<p>○選定の理由、○取組方針 リピーターを増やすため、特に札幌・旭川圏からの家族層や訪問率の高い若年層などの1泊2日訪問・宿泊率を増やすことが目的。 満足度調査の充実などにより再来訪意向につながる要因を分析し、分析結果に基づいてターゲット層に強力に訴求するコンテンツを磨き上げる。</p>
<p>○ターゲット層② 北海道外 50歳以上のアクティブ層、20～40歳代の元気な女性 修学旅行生、長期滞在希望、移住予備軍</p>
<p>○選定の理由、○取組方針 避暑地や長期滞在の移住地としての選択先を目指し、首都圏を中心とした層を狙いとす る。 目的別方針としては、サイクリング、ドライブ、食、花、アウトドア、温泉、登山、避暑、移住とし、特にサイクリングは他地域に多い島めぐりや海を感じるルートではなく、ヨーロッパのような大陸型のロングライドの聖地として推進する。</p>
<p>○ターゲット層③ 海外 東アジア (台湾、香港) へは30～50代のリピーター、東南アジアは家族層への雪と桜、オーストラリアへは家族層の冬のスキーとする。</p>
<p>○選定の理由、○取組方針 インバウンドについては、富良野美瑛の花以外の時期を埋め、一年を通して集客できるターゲットであるため、それぞれの国の旅行時期にあった情報を発信しプロモーションを行っていく。</p>

(3) コンセプト

<p>①コンセプト 「富良野・美瑛 田園休暇」 ～アジアで最も豊かで美しい四季彩の大地へ～</p>	
---	--

②コンセプトの考え方

地球だけでなく、地球における人々の暮らしを見つめなおし、地球環境への負担を軽減した持続可能な生き方、人と人とのつながりを大切にしたい人が本来持っている生き方を身につけることができるプログラムを用意し、衣食住を基本に日常の暮らしや、動作の中（家事、労働、コミュニケーション、食、寝る、休暇）の体験を通じて体感的に考えるプログラムを構築し、物質的な豊かさ（お金、モノ、消費）や効率的な豊かさ（代替エネルギー）に頼らず、人や地域、身の回りにあるものを活用した生活のあり方を提案する。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有	地域全体を俯瞰し、地域のマネジメント機能を担う観光地域づくりマネージャー等を各部会の中心として月1回を基本とし、各地域の自治体・観光協会の担当者が集まり、ブランド戦略やマーケティング、リスクマネジメントについて議論が行われている。また、地域産業や地域住民とは、地域の誇り・資源を掘り起こす研修を兼ねたフィールドワークが定期的を実施しており、主体的に観光地域づくりに参画できるような意識醸成やコミュニケーションの場づくりに取り組んでいる。具体的には、年1回の全体総会、年2回の全体戦略会議及び部課長会議、各部会の会議は6回、各担当者の会議を8回程度実施する。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	富良野美瑛を訪れる観光客の満足度向上のために、来訪者が「何に期待し」「何にイメージとのギャップを感じ」「どれくらい満足し」「自分の経験を他人に紹介したいか」「もう一度来たいか」を数値化し、平年での変化を追いながらそれを、フィードバックしながらサービスの維持向上を図っている。
一元的な情報発信・プロモーション	来訪者（未来訪者を含む）にブランド・イメージを訴求するため、地域一体で「ブランド・コンセプト」に基づく統合的な情報発信をHPにて行っている。また、その中では宿泊や体験プログラムを予約～決済まで一括管理・販売可能なシステムも導入している。

6. KPI（実績・目標）

(1) 必須KPI

	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
●旅行消費額	円	57,901	53,722	50,000 (目標)	55,000 (目標)	60,000 (目標)	66,000 (目標)
●延べ宿泊者数	泊	1,649,424	1,577,400	1,600,000 (目標)	1,650,000 (目標)	1,700,000 (目標)	1,750,000 (目標)

(別添) 様式 1

●来訪者満足度	%	86.0	81.0	85.7 (目標)	86.0 (目標)	87.0 (目標)	88.0 (目標)
●リピーター率	%	59.8	55.2	85.7 (目標)	86.0 (目標)	86.0 (目標)	86.0 (目標)

※年次及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

<p>【検討の経緯】 【設定にあたっての考え方】 本地域の目指すところをまとめたグランドプランにおいて、目標設定は地域における観光の推進であり、その達成度は数値により表しがたいものだが、取組の効果を具体的に評価・検証できるよう、「宿泊延べ数」と「総合満足度」と「観光客消費単価」の「リピーター率」の数値を増やすことを目安に進めていく。 満足度が再来訪意向、紹介意向等に関係する重要な要素であることから年1%程度の増を目指し、それに連動するカタチでリピーター率の目標数値を掲げている。 事業の効果を適切に評価するための来訪者満足度をはじめとした明確な数値目標を立て、目標に対する効果が検証できるよう経年変化として数値を利用している。</p> <p>●旅行消費額 観光経済効果の指標と考える</p> <p>●延べ宿泊者数 観光施策の最も重要な指標と考える</p> <p>●来訪者満足度 総合満足度と不満足は何を原因としているかを図る重要な指標とて分析</p> <p>●リピーター率 リピーター率を分析することで事業推進の方向を考える</p>
--

(2) その他の目標

	単位	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
●観光入込客数	人	6,992,838	7,057,800	6,890,000 (目標)			
●平均宿泊数	泊	1.37	1.38	1.50 (目標)	1.52 (目標)	1.53 (目標)	1.54 (目標)
●外国人宿泊数	人	185,178	193,720	224,000 (目標)	228,000 (目標)	230,000 (目標)	236,000 (目標)

※項目及び年次・目標数値の設定にあたっての検討のプロセス及び考え方

(別添) 様式 1

【検討の経緯】

戦略会議等の諸会議において施策の評価検討のひとつとして活用
平均宿泊数については2泊を目標とする仮定の中で年間少しずつの上昇と考えており、外国人宿泊数については全体の宿泊延べ数の2割程度を目標とし日本人の閑散期を埋め通年化を図ることも考えている。

【設定にあたっての考え方】

- 観光入込客数
滞在プログラムやイベント等の指標として活用や日帰り客を含めた経済効果を計るため
- 平均宿泊数
月ごとの入込の平準化、通年化を狙った取組の評価として活用
- 外国人宿泊数
インバウンドへの取組の評価指標として活用

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

(1) 収入

年度	総収入 (円)	内訳
30年度	105,236,094 (円)	【国からの補助】 296,294 円 【市町村からの補助金】 4,900,000 円 【市町村からの委託費】 12,000,000 円 【その他の事業収入】 9,430,000 円 【会費収入】 9,300,000 円 【収益事業収入】 67,000,000 円 【民間企業等からの負担金】 2,309,800 円
29年度	105,236,094 (円)	【国からの補助】 296,294 円 【市町村からの補助金】 4,900,000 円 【市町村からの委託費】 12,000,000 円 【その他の事業収入】 9,430,000 円 【会費収入】 9,300,000 円 【収益事業収入】 67,000,000 円 【民間企業等からの負担金】 2,309,800 円
28年度	120,099,055 (円)	【国からの補助】 397,299 円 【市町村からの補助金】 3,682,520 円 【市町村からの委託費】 17,811,931 円 【その他の事業収入】 9,027,172 円 【会費収入】 9,000,000 円 【収益事業収入】 77,272,730 円 【民間企業等からの負担金】 2,890,928 円 【雑収入】 16,475 円
27年度	117,821,482 (円)	【国からの補助】 740,400 円 【市町村からの補助金】 5,000,000 円 【市町村からの委託費】 10,000,000 円 【その他委託費】 108,000 円 【その他の事業収入】 9,176,538 円 【会費収入】 7,675,000 円 【収益事業収入】 79,310,289 円 【民間企業等からの負担金】 5,126,410 円 【雑収入】 684,845 円

(別添) 様式 1

26 年度	100,411,846 (円)	【国からの補助】 756,970 円 【市町村からの補助金】 12,670,000 円 【その他の事業収入】 10,806,491 円 【会費収入】 7,660,000 円 【収益事業収入】 63,379,046 円 【民間企業等からの負担金】 5,093,567 円 【雑収入】 45,772 円 (円)
-------	-----------------	---

(2) 支出

年度	総支出	内訳
30 年度	104,606,707 (円)	【一般管理費】 10,485,900 円 【その他管理費】 14,323,910 円 【国内プロモーション】 2,000,000 円 【海外プロモーション】 2,000,000 円 【市町村補助事業費】 6,549,004 円 【市町村委託事業費】 16,436,928 円 【収益事業支出】 52,810,965 円
29 年度	104,606,707 (円)	【一般管理費】 10,485,900 円 【その他管理費】 14,323,910 円 【国内プロモーション】 2,000,000 円 【海外プロモーション】 2,000,000 円 【市町村補助事業費】 6,549,004 円 【市町村委託事業費】 16,436,928 円 【収益事業支出】 52,810,965 円
28 年度	111,883,238 (円)	【一般管理費】 9,820,897 円 【その他管理費】 15,250,484 円 【国内プロモーション】 1,355,548 円 【海外プロモーション】 1,273,313 円 【市町村補助事業費】 5,508,367 円 【市町村委託事業費】 22,766,447 円 【収益事業支出】 55,908,182 円
27 年度	110,321,393 (円)	【一般管理費】 10,641,825 円 【その他管理費】 15,383,289 円 【国内プロモーション】 1,300,000 円 【海外プロモーション】 1,500,000 円 【市町村補助事業費】 10,907,404 円 【市町村委託事業費】 14,260,000 円 【収益事業支出】 56,328,875 円
26 年度	101,668,758 (円)	【一般管理費】 9,408,160 円 【その他管理費】 28,417,854 円 【国内プロモーション】 1,007,573 円 【海外プロモーション】 2,053,808 円 【市町村補助事業費】 10,907,404 円 【収益事業支出】 49,873,959 円

(別添) 様式 1

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

市町村からの補助金及び委託事業の資金が主な運営資金であるが、その他に施設の入場料収入及び旅行業を利用した収益事業やHPバナー掲載収益、会員会費収入などが運営資金にあたる。

8. 日本版DMO形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

北海道美瑛町、上富良野町、中富良野町、富良野市、南富良野町、占冠村は一般社団法人ふらの観光協会を当該市町村における地域連携DMOとして登録したいので一般社団法人ふらの観光協会とともに申請します。

北海道は、一般社団法人ふらの観光協会を、当該都道府県における地域連携DMOとして登録したいので、一般社団法人ふらの観光協会とともに申請いたします。

9. 記入担当者連絡先

担当者氏名	石川 芳
担当部署名(役職)	一般社団法人 ふらの観光協会
所在地	北海道富良野市日の出町1番30号
電話番号(直通)	0167-23-3388
FAX番号	0167-39-1222
E-mail	ki.kankou@furano.ne.jp

10. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	北海道富良野市役所
担当者氏名	松木 政治
担当部署名(役職)	商工観光課観光係長
所在地	北海道富良野市弥生町1番1号
電話番号(直通)	0167-39-2312
FAX番号	0167-23-2123
E-mail	matsuki.masaharu@city.furano.hokkaido.jp

都道府県・市町村名	北海道富良野市役所
担当者氏名	鷺見 悠太
担当部署名(役職)	商工観光課観光係
所在地	北海道富良野市弥生町1番1号
電話番号(直通)	0167-39-2312
FAX番号	0167-23-2123
E-mail	sumi.yuuta@city.furano.hokkaido.jp

都道府県・市町村名	北海道美瑛町役場
担当者氏名	谷口 雄二

(別添) 様式 1

担当部署名 (役職)	経済文化振興課観光振興係長
所在地	北海道上川郡美瑛町本町4丁目6番1号
電話番号 (直通)	0166-92-4321
FAX 番号	0166-92-4414
E-mail	keibun_shinkou@town.biei.hokkaido.jp

都道府県・市町村名	北海道上富良野町役場
担当者氏名	上村 正人
担当部署名 (役職)	産業振興課商工観光班
所在地	北海道空知郡上富良野町大町2丁目2番11号
電話番号 (直通)	0167-45-6983
FAX 番号	0167-45-5362
E-mail	uemura-m@town.kamifurano.lg.jp

都道府県・市町村名	中富良野町役場
担当者氏名	対馬 靖士
担当部署名 (役職)	産業建設課商工観光労働係
所在地	北海道空知郡中富良野町本町9番1号
電話番号 (直通)	0167-44-2123
FAX 番号	0167-44-2401
E-mail	yasushi.tushima@nakafurano.jp

都道府県・市町村名	南富良野町役場
担当者氏名	一條 路晴
担当部署名 (役職)	企画課主幹 (商工観光)
所在地	北海道空知郡南富良野町字幾寅
電話番号 (直通)	0167-52-2115
FAX 番号	0167-52-2225
E-mail	ichijyou.michiharu@town.minamifurano.lg.jp

都道府県・市町村名	占冠村役場
担当者氏名	後藤 義和
担当部署名 (役職)	企画商工課商工観光担当
所在地	北海道勇払郡占冠村字中央
電話番号 (直通)	0167-56-2124
FAX 番号	0167-56-2184
E-mail	yoshikazu.goto@vill.shimukappu.lg.jp

都道府県・市町村名	北海道
担当者氏名	木之内 将一
担当部署名 (役職)	経済部観光局観光地づくりグループ
所在地	北海道札幌市中央区北3条西6丁目
電話番号 (内線)	011-231-4111 (26-585)
FAX 番号	011-232-4120
E-mail	kinouchi.masakazu@pref.hokkaido.lg.jp

